

部全学科の1～4年生の「安全工学セミナー」等の専門教育の教材として活用している。本著書を用いた安全安心工学を基礎から「地域に学ぶ」実践まで、総合的に教育する長崎大学の教育プログラムは、受講者から高い評価を受けている。また、企業や自治体に対しても公開講座等で利用しており、防災や特許の出願などへ展開し、地域と連携したPBL教育として高い評価を受け、今後のいっそうの効果が期待できる。

代表) 林 秀千人 氏

1984年3月 九州大学大学院博士課程単位修得退学

1986年10月 長崎大学工学部講師

2004年4月 長崎大学工学部教授

2011年4月 長崎大学大学院工学研究科総合実践教育研究支援センター長(兼任 現在に至る)

著作賞：安全安心工学入門～安全安心は長崎から～の刊行

長崎大学工学部安全安心工学入門編集委員会
団体受賞

長崎大学工学部では、平成18年度から20年度にかけて文部科学省の現代的ニーズ取組支援プログラム(GP)の支援を得て、「健全な社会を支える技術者の育成」に取り組んできた。この3年間の教育活動の成果を、まとめた著書「安全安心工学入門～安全安心は長崎から～」(古今書院、全187頁)を工学部教員を中心に刊行した。

長崎大学工学部では、安心して暮らせる健全な社会を支える技術者を育成するために、本学部の特徴であるものづくり教育と安全・安心教育の融合を図るとともに、長崎地域特有の問題を題材とした「地域に学ぶ」実践教育を通して、総合的・実践的キャリア教育を行っている。この成果をわかりやすく、具体的にまとめたのが本著書である。本書は、工学の基礎となる安全安心工学の基礎編(4章)と長崎大学工学部が地域の安全に取り組んできた地域の高齢者・要援護者の生活、自然災害に関する安全安心を取り扱った応用編(4章)から構成されている。基礎編では、安全・安心の科学の導入として、リスクの定量的評価とマネジメントや安全の文化の紹介から、安全なものづくりへの基本的な考え方、情報セキュリティや化学物質の安全性の概念を示している。また応用編では、地域の火山災害に対する安全を確保するための防災の試みや、長崎に多い斜面地・離島の安全・安心に向けての試み、インフラなど既存のものごとの安全性確保に向けた対策と安心への取り組みなどを紹介している。

本著書は、大学1年次の全学必修科目「教養特別講義」において、安全・安心の概念とものづくり、生活の安全安心、災害の安全安心をわかりやすく体系的に講義するテキストとして活用している。さらに、工学